松藤会グループ広報誌

まほろば

「地域にいきる」を支えます

TAKE FREE

ご自由に
お持ち帰りください

Vol. 63
2020 WINTER

特集 松藤会は社会医療法人へ

「地域にいきる」を支えますを合言葉に
地域医療・福祉に貢献してまいります。

謹賀新年

松藤会は社会医療法人として、新たにスタートします

新年あけましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。
皆様には旧年中、当法人ならびに各事業所に対しご協力を賜りました事に、厚く御礼を申し上げます。

さて、松藤会は令和二年一月一日付で兵庫県知事より認定を受け、社会医療法人となりました。

平成25年の医療法改正により、各都道府県において精神疾患と在宅医療を加えた「5疾病・5事業および在宅医療」の医療連携体制の構築が進められています。
社会医療法人とは、これまで自治体病院や大病院などが中心に行ってきた「5事業」＝救急医療・小児医療・災害時医療・へき地医療・周産期医療などの『公益性の高い医療』について、新たな担い手として専門的な医療を提供することを認められた法人です。
当法人においては、入江病院が「救急医療」の分野で継続的に地域の医療提供体制を担ってきた実績：年間1950件受け入れ（うち時間外1250件）が評価され、この度の認定に至りました。

5疾病の分野においては、国が推奨する「糖尿病性腎臓病の重症化予防」に先んじて取り組んでいます。姫路市は透析導入の原因疾患で最も多い糖尿病の有所見率が、兵庫県内で男女ともにワースト1位です。昨年末より、医師会を中心とした透析ハイリスク者予防事業が始まり、今後は地域全体で重症化予防が広がっていくことが期待されます。

入江病院では「疾病管理ＭＡＰ」というツールを用いて、患者さんの状態の「見える化」を行うことで糖尿病の専門外来だけでなく、通院中で薬物治療中の患者さんすべての腎臓病のステージを把握することが可能です。その上で患者さん自身に腎臓の状態を理解していただき、必要に応じて医師、看護師、管理栄養士の三位一体で腎臓病の進展予防のための指導も行っています。

高齢社会を迎えた我が国では、要介護の状態となっても可能な限り、住み慣れた地域で自立した日常生活を営むことができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制を目指し、地域包括ケアシステムが構築されました。（地域包括ケアシステムについては、特集ページをご覧ください）
松藤会の強みは、救急・急性期医療から回復期、在宅医療まで切れ目ない医療が提供でき、さらに介護老人保健施設や通所リハビリテーションなどで集中的なリハビリテーションが行えることです。また、入江病院の前にはサービス付き高齢者向け住宅があり、安心の住まいの実現を目指しています。

地域包括ケアシステムの実現に向けては、地域の医療機関や介護事業所との連携が大変重要です。高度な医療は大病院へ任せ、地域の医院やクリニックとの連携も強化してまいります。当法人の機能を活用して頂くことで地域の健康に役立てるのではないかと考えています。

新しい時代を迎え、松藤会としてもこれを新たなスタートと位置づけ、グループの基本理念である「安心と満足」のもと、職員が一丸となり地域のニーズに寄り添い、地域社会の安心実現を目指し邁進努力致す所存です。
今後とも引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和二年一月

社会医療法人　松藤会
理事長　入江　隆三郎

いつまでもこの町で
自分らしく過ごしたい

「介護が必要になった時のこと」
考えたことはありますか？

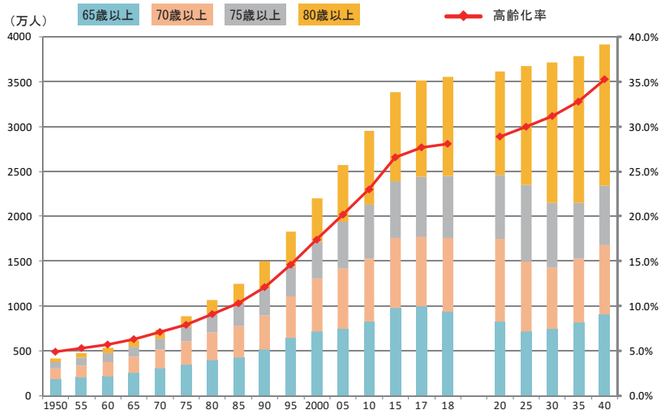
日本は、世界でも例を見ないスピードで高齢化が進んでいます。
特に団塊の世代が75歳を迎える2025年以降は、医療や介護の需要が増えることが予想されています。
国はこの2025年を目途に、それぞれの地域で、地域の実情に合った医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に確保される体制を構築していくことの必要性を強調し、地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築を推進しています。

地域包括ケアシステムとは？

高齢者が重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組みのことをいいます。

高齢者人口及び割合の推移（1950年～2040年）

総務省統計局より

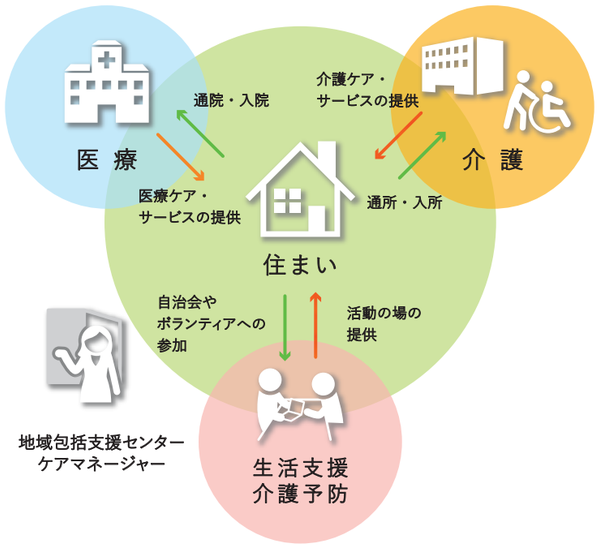


資料：1950年～2015年は「国勢調査」、2017年及び2018年は「人口推計」
2020年以降は「日本の将来推計人口（平成29年推計）出生（中位）死亡（中位）推計
（国立社会保障・人口問題研究所）から作成
注１）2017年及び2018年は9月15日現在、その他の都市は10月1日現在
２）国勢調査による人口及び割合は、年齢不詳をあん分した結果
３）1970年までは沖縄県を含まない

ときどき入院、ほぼ在宅

高齢者の増加により、病院や施設での医療・介護ケアの供給が不足する事態が懸念されます。
そこで、国は在宅医療・介護を促進させており、2025年には病院で治療を受ける人よりも在宅で医療・介護を受ける人が多くなると予想されています。
病院としても、症状が落ち着いた患者さんについては法人内の事業所や地域の医療機関・介護事業所と連携し、シームレス（つなぎ目のない）なケアの提供を目指しています。

地域包括ケアシステムのイメージ



こんなときは誰に頼ればいい？

入院した時に頼れる存在
医療ソーシャルワーカー（MSW）

主に医療機関において、患者さんや家族が抱える心理的・社会的問題、さらに医療費や生活費などの経済的な問題に関する相談援助を行っています。
また、退院前には各種制度の利用や地域の関連機関と連携して、退院後の生活に焦点をあてて社会復帰の促進を図っています。

介護の専門的な相談は
居宅介護事業所 ケアマネージャー

介護が必要となった、要介護者や要支援者の人の相談や心身の状況に応じ、介護サービスを受けられるように介護サービス等の提供についての計画（ケアプラン）の作成や、市町村・サービス事業所・施設、家族などとの連絡調整を行っています。
居宅介護支援事業所では、主に要介護1以上の高齢者を担当します。

まずは知っておきたい
地域包括 支援センター

高齢者の多様なニーズに対応し、必要なサービスを包括的・継続的に調整する総合的な窓口として、地域に設置されています。
まだ介護が必要でない高齢者からサービスを利用したい方、要支援2までの方まで幅広く相談に応じてくれます。
地域の高齢者支援に関する拠点ですので、知っておきたいですね。

次回
「松藤会」の
地域包括ケアシステムの取り組み

昨年、260年ぶりに拝殿の新調が行われた英賀神社
5月21日に上棟式、9月20日に竣工式が行われ、そして迎えた秋祭り
待ちわびた氏子らによる勇壮で見事な拝殿練りが披露されました

英賀神社 木村尚樹宮司

～Interview～

『地域にいきる』

―― 昨年は260年振りの拝殿新調と大きな一年でしたが、今の心境はいかがですか？

拝殿の建て直し期間中は拝殿練りを行うことができませんでしたが、5年ぶりに拝殿練りが復活して順調に秋祭りを執り行うことができました。

近年は大変嬉しいことに英賀神社の秋祭りが賑わい、屋台も大型化してきました。しかし、その一方で旧拝殿は老朽化が進み安全面に不安を抱えていましたので、拝殿を新調する運びとなりました。

新拝殿の屋根には姫路城と同じいぶし瓦を、柱や梁には高品質のヒノキや松材を使用しています。見た目の美しさだけでなく、耐震強度も十分に施されており安全な祭りを行うことができるようになりました。

―― 英賀保の魅力を教えてください

英賀保はその昔、播磨風土記に出てくる阿賀彦神・阿賀姫神がこの土地を切り開かれたと伝えられており、その神様の名前がそのまま地域の名前になっている歴史ロマンがあふれた地域です。

姫路城下が時代とともに栄えるようになりますが、古くは夢前川・水尾川・瀬戸内海の天然の要害に囲まれた英賀城が畿内と九州を結ぶ要衝として栄えていました。

このロマンあふれる英賀保の地域で、現代の方々も秋祭りをはじめ神社で行われる行事に非常に熱心な方が多く、歴史を継承していくために日々活動されている姿が印象的です。

神社では、寄付札や玉垣などで様々な人の名前を目にすることができます。祖先の存在を知ることで自分という存在は繋がりの中で生きている、帰郷した人々が地元に残る友人の存在を知ることで故郷を実感できる、神社はその役目を担う場所だと思います。

―― 地域の健康について宮司よりメッセージをお願いします

人間というのは「もともと元気である」という日本古来の考え方があります。

神社では、「罪穢れ」と言われますが、ホコリが被ってくることで元気が失われる。それをお祓いすることで、気が元のとおりに立ち返ると考えられています。

入江病院では毎年屋台練りが行われていますが、見ているだけで元気を取り戻すことができると思います。元気を取り戻すには、自分自身が元気だった頃＝祭りをしていた頃を思い出すことで、丹田（腹の底）から元気がみなぎるのです。

地域の方々には神社や地域行事、入院や施設入所されている方には、その場所でのイベントに積極的に参加していただき、昔話に花を咲かせて元気を取り戻してもらいたいと願っています。

拝殿には高品質のヒノキ、松材が使われており、堂々とした拝殿である

きむら・なおき　英賀保小、飾磨西中を卒業。国学院大学で神官の資格を取得。英賀神社を始め、蒲田神社や高岳神社の宮司として神事、地域活動にご尽力されています。

コラム | Column

ゆめさき亀池のお話し

カメにも五感があるって知っていますか？

その１．カメは色を見分けられる

カメはしっかりと人の顔を見ています。「敵」と「味方」を判断し、意外にも視力は発達し色を識別することもできるそうです。

その２．聴覚と嗅覚

カメは顔の側面に耳を持っており、鼓膜が張り付いている状態で聴覚は敏感、大きな音を立てるとびくっとします。フランソワも名前を呼ぶとちゃんと振り返りますよ。また、相手の存在をにおいで判別することも出来るとか…。カメが水場に向かうのは。水の音やにおいを感じ取っているからかも、と。

その３．おいしさも痛みも…。

結構好き嫌いをして飼い主さんを悩ませたりするそうで、どちらかというと味の濃い餌を好み、食べる前に匂いを嗅いだりします。血管や神経を持っているので人間と同じように痛みも感じます。

のんびりしているカメさん、実は敏感な生き物なのです。カメさんのこと知っていくと、一層、かわいいと思ったりしませんか？

［おわり］

第24回　外来糖尿病教室のご案内

「冬はフットケア」
～乾燥する季節は足のケアが大事です～

寒い冬はつい足を暖めたくなりますが、足の感覚が鈍っていると熱さを感じにくくやけどをしても痛くもありません。そのため軽く考え放置してしまうと、下肢切断の危険にさらされます。一緒に**大切な足**について学びましょう。

日　時：２月１日（土）10:00～11:30
場　所：入江病院４階　食堂

どなたでも参加できます。お気軽にお越しください。

［リリーフあがほ］

・男性に限ります
・参加は無料
・初心者大歓迎です

一局いかがですか？
囲碁・将棋サロン

今、囲碁と将棋がブーム！！
ずっと続けている方、久しぶりに打ってみたい方、お気軽にお越しください。

開催日：毎月第２・４火曜日
時　間：13：30～
場　所：リリーフあがほ（入江病院向かい）

詳しい、お問い合わせは
飾磨西地域包括支援センター
TEL 079-240-6528　まで

急性期医療から回復期リハビリ、施設介護、そして在宅医療まで。

「安心と満足」の医療・介護で地域を支えます。

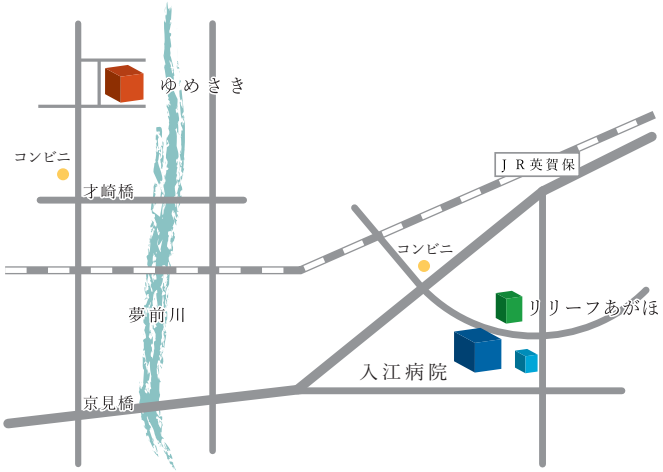
社会医療法人
松藤会

「地域にいきる」を支えます

表紙のおはなし

当法人では **「地域にいきる」を支えます** を合言葉に地域医療・福祉に取り組んでいます。
そして、広報誌まほろばでも地域の皆さまとのコミュニケーション、繋がりを大切にしたいと思っています。
中面に英賀神社木村尚樹宮司のインタビュー記事がありますので、どうぞご覧ください。
今号の表紙：昨年、260年ぶりに拝殿を新調した英賀神社。新年の装い。

入江病院
〒672-8092　姫路市飾磨区英賀春日町2丁目25番地
TEL.079-239-3121（代）
併設事業所：短時間型通所リハビリテーション
訪問看護ステーション

介護老人保健施設　ゆめさき
〒671-1103　姫路市広畑区西夢前台6丁目56-1
TEL.079-237-8735（代）
併設事業所：居宅介護支援事業所

サービス付き高齢者向け住宅　リリーフあがほ
〒672-8092　姫路市飾磨区春日町2丁目11番地
TEL.079-238-5855